

Hiroshima

報所會議工商島広

TOPICS

特集 **Pride of Hiroshima 常設展** ～広島企業の復興の軌跡～

原点快喜 | 広島信用金庫、柏村印刷(株)広島支店

Pride of Hiroshima



Pride of Hiroshima

～広島企業の復興の軌跡～

Pride of Hiroshima

連なる想いを、次の世代に。

「Pride of Hiroshima常設展」の開催には、地元企業の復興への取り組み、またそこに関わった人々の想いを「次の世代に伝えていくこと」が大きな目標の一つとされています。そのため会場の運営スタッフも、半数は県内の学生を中心としたスタッフを起用。それも実務を任せただけではなく、企画業務など展示会の運営そのものに深く関わる役割が託されています。連載二回目は、実際に「Pride of Hiroshima常設展」に関わった若い世代の三人に、会場や裏方での経験を通して感じたこと、また自身の中での変化について聞いてみました。



吉岡 諒騎

大分県出身

叡啓大学 2年

ソーシャルシステムデザイン学部

多くの人との交流から、

将来の選択肢が広がりました

中学生の時に宮島に一人旅で訪れてから、広島に憧れを持っていました。大学進学時に叡啓大学を選んだのも、広島で暮らしてみたいという気持ちが強かったからです。Pride of Hiroshima常設展に参加したきっかけは、友人に誘われたから。ただ、この仕事ならではの経験ができるんじゃないかな、という期待感がありました。

基本的には来場された方に展示物の説明を行うアテンド業務を担当しています。しかし常設展ではただ一方的な説明を行うのではなく「交流」を重視した接遇を目指しており、会話の機会がとても多いですね。もちろんその中で、自分自身も学ぶ機会が多々あります。

自分としては、来場者の方とのコミュニケーションだけではなく、運営に携わる地元企業の担当者の方々との関わりがとても有意義に感じられます。地域の歴史はもちろん、広島の企業に就職した理由や、仕事の経験談など、空き時間に交わす雑談はある意味、大学で学ぶこと以上に自分にとっては有益な情報です。それらを通して自分の将来に対する視野も広がりましたし、もちろん「広島で働く」という選択肢も具体的に感じられるようになってきたと思います。

広島愛。将来への自信。

さまざまな財産が得られました

仙台出身の私にとって、広島は縁もゆかりもない地です。しかし進学を機にこちらに住むこととなったからには、広島でしかできないことに挑戦したいという気持ちもありました。これがPride of Hiroshima常設展に参加を決めた理由です。実際に展示物を見てみると、ただ被害を訴えかけるだけではない「復興の物語」は色々と心に刺さるものがあり、これを伝えていくことには大きな意義も感じています。

アテンド業務だけではなく幅広い挑戦ができることも、ここで働く魅力です。先日は場内に展示されている当時のマツダのパンフレットを、ぜひ手に取って見ていただけた形にしたいと考え、なんとかレプリカが作れないかという提案をさせていただきました。その実現のために、マツダをはじめ地元の印刷会社さんなど多くの方々が本気で向き合い、力を貸してくれたこと。これが本当に嬉しかったですね。自分たちの声に耳を傾け、支えてくれる人がいる。その実感を通して、私も「広島が好き」という気持ちが持てたように感じます。私は将来、この手で何か事業を立ち上げたいという夢を持っていますが、理解ある方との信頼関係がその実現を助けてくれるのではないかと自信を持つことができました。



山形 真里奈

宮城県出身

叡啓大学 2年

ソーシャルシステムデザイン学部



藤山 実咲

山口県出身
叡啓大学卒
Li-mone代表

若い人が、生き方を考える

キッカケを伝えていきたい

私が高校生の頃、世間はちょうどコロナ禍の真っ只中。学生という立場でもさまざまな機会が失われ、所属していた吹奏楽部でも卒業する先輩を送る演奏会が中止の憂き目に遭いました。しかし私はそこに納得できずに各方面にさまざまな働きかけを行い、学生の声から地域をも動かし、みんなで少しずつ踏ん張ることで、従来とは違えど、コンサートを開催することができました。動けば変わる。この体験から私は大学卒業後“生活者を応援する”Li-moneを立ち上げました。Pride of Hiroshima常設展での学生統括という仕事も、Li-moneの取り組みの一環です。

常設展では展示を通して「過去頑張ってくださった方々」のおかげで、今の私たちの社会があることを実感できます。また運営実務では、私たちの暮らしを支えてくれるさまざまな企業の方との出会いがあり、学生と企業それぞれの立場から困ったことや課題について話し合い、物事を前に進めていきます。社会では誰もが、誰

かに支えられているんです。声を上げることや動くことで、必ず周囲は変わってくる。そう考えれば社会は、とても生きがいややりがいにあふれたものになるし、きっと自分の豊かな生活を描くことと、より良い世の中を創っていくことは、そうかけ離れた話ではないのだと思います。Pride of Hiroshima常設展は若い人たちにとって、それを感じられる場所になってほしいと願っています。

…どれだけ次なるPride of Hiroshimaの担い手が育ち、増えたか？どれだけ次なるPride of Hiroshimaが生まれたか？…ここに、Pride of Hiroshima常設展の大きな開催意義があります。表立った数字や実績に表れにくくても、若い人たちの心のどこかに広島に対する愛着、またこの地で生きていこうとする意志を芽生えさせることが出来れば、展示の意義はあったと言えるでしょう。今回話を聞いたメンバーはまさに企画の当事者でもあり、その想いをダイレクトに汲み取ってくれています。彼らからの、彼らの手による発信が、さらに多くの若い世代に響いていくことを期待してやみません。

さて次回からは、実際に常設展にご協力いただいた企業に視点を移した記事を掲載していきます。深掘りしたエピソードなど、Pride of Hiroshima常設展の解像度をさらに上げていくお話をお届けします。

好評開催中「Pride of Hiroshima常設展」

開館時間 10:00～18:00 入 場 料 無料

休 館 日 月曜日休

※ただし月曜日が祝休日の場合は開館、その翌平日休館

会 場 ひろしまゲートパーク内「シmintひろしま」C棟2F

主 催 Pride of Hiroshima常設展実行委員会

委員長：池田 晃治 副委員長：葛蒲田 清孝 / 松井 一寛

事務局：マツダ株式会社

共 催 広島市

後 援 広島県、広島県教育委員会、広島市教育委員会、広島商工会議所

参画企業 アンデルセングループ / (株)イズミ / オタフクソース(株)
(50音順) 大和重工(株) / (株)中国新聞社 / 中国電力(株) / (株)中電工
西川ゴム工業(株) / (株)ひろぎんホールディングス / 広島ガス(株)
広島電鉄(株) / (株)広島東洋カープ / (株)フジタ
(株)フレスタホールディングス / マツダ(株) / (株)もみじ銀行

協賛企業 キリンビール(株) / (株)ガイエンス / 巢守金属工業(株)
(50音順) ダイキョーニシカワ(株) / 広島アルミニウム工業(株) / 広島駅弁当(株)
(株)広島ホームテレビ / (株)フジ / (株)マザーハウス / 丸井産業(株)
(株)マルニ木工 / (学)安田学園 / (株)ユニバーサルポスト

